管せしめ、就中伊犂を以て新疆全部の重鎮と爲し、將軍を駐劄せしめたり。

烏什の回亂

乾隆二十九年（千七百六十四年）烏什の伯克（地方長官）阿布都拉、暴戾利欲を縱にし。辨事大臣蘇成も亦酒色に酖り、甚しきは土人の妻女を署中に呼び、兵をして裸體之を逐はしめ以て快樂と爲すに至る。人民憤怨、訴ふる所を知らず。兵器を操て一齊に起ち阿布都拉及諸官吏軍兵を併せて盡く之を殺戮せり。是に於て喀什噶爾、伊犂の清兵皆來り會し、攻圍三箇月、叛民善く防ぎ、善く戰ふと雖も、外援なきの故に遂に陷り、城內の住民盡く清兵の刃に滅亡したりき。

昌吉の變

烏什の亂後三年、即ち乾隆三十二年（千七百六十七年）昌吉の變あり。是より先き迪化州を烏魯木齊に設け、阜康、昌吉、綏來の三縣を管轄せしめ、昌吉には大に屯田を興し、且つ流屯と名づけて、內地囚人の屯戶を設けたり。屯官偶〻中秋の月夜を以て流人を犒ひ、酒を山坡に置き、男女雜坐して興を遣りしが。屯官醉に乘じ、流婦に逼りて謳はしむ。流人激怒、俄に變を爲し、官吏を殺し兵器を奪ひ、遂に城に據りて叛く。烏魯木齊駐防の兵進んで之を討つ、叛民支へず、事忽ち平らぎぬ。

吐爾扈特の復歸

乾隆三十六年（千七百七十一年）露領、多波利斯克附近に游牧（明末塔爾巴哈臺を脫しせるもの）せる